

ふ豆腐屋より出火、三軒焼失。とあり。同九年の土帳に、千石松崎五郎兵衛堅町と載せられたれば、松崎小路は俗稱にて、本名を堅町と呼べるなり。今は池田町に屬す。

○松崎龜之助傳話

女童の手鞠歌に、ぼんと打出す火事大鼓、火もとはどこじや長三郎、先づ一番に權之助、二番に松崎龜之助、三番横山兵部さま、四番に篠原主水さま、五番に中山せいがんじ、六番津田なる玄蕃さま、七番入りては、番太郎なんぞが拍子木敲いてうけつけぬ。といへり。按ずるに、手鞠歌の唱歌は兒童の口傳にて、證とするに足らずといへども、古きものなれば聊か考證とすべし。右出火は何れの頃ならんか。津田玄蕃・篠原主水などの名にて見れば、元祿頃の作なりけん。

○眞性坊小路

或は眞乗坊小路と書けり。此の小路は堅町松崎小路の上なる小路を呼べり。舊傳に、昔此の小路に眞性坊といへる山伏の邸地あり。故に小路の名に呼べりと。明治廢藩の後、此の地邊をば都て池田町とすれど、于今尙眞性坊小路と呼ん。

べり。

○眞性坊傳

貞享二年由來書に左の如く記載す。

私親眞性、慶安三年庚寅五月松壽院代中衆に被申付、東照權現御神前香花・燈明・掃除等仕候。其上兩御佛殿、右之通毎月御命日に罷出相勤申候。今年迄三拾七年に而御座候。私居屋敷地子地に居住仕申候。

貞享二年九月十七日 犀川堅町中衆 眞性

右東照宮御神前燈明・掃除等仕中衆由來相尋、書付出候付、帳面に記上之候。以上。

貞享二年九月十八日

金澤卯辰天台宗 西養寺 名判

右同時に、犀川小鳥屋町中衆宗壽の由來書も指出し、兩人同時に勤めたり。菅家見聞集に、寛文元年大猷院殿の靈堂金澤に造營の時、掃除坊主宗壽坊・眞教坊、各天台宗坊主にて妻帯也。とあり。眞教坊は眞性坊の書損也。神護寺舊記に、金澤東照宮の詰番に、山伏之内より人撰して交番せしめたる由見ゆれば、菅家見聞集に、天台宗の坊主とあるは傳聞

の誤なるべし。金澤町會所留記に載せたる、正徳元年金澤

醫師長谷川學峰の由緒書に、生國越前、三國湊氏神祇園之別當山伏常福院と申者之嫡子に候處、當國小松五穀寺住持筋目有之に付取持に而、元祿十五年春當地神護寺之中衆堅町眞乗坊方へ望養子に罷越、神護寺へ相勤候處、家傳之醫道有之に付、神護寺役僧中へ相斷、妻女離別致し立退、從弟百姓町長樂寺へ立寄、長谷川學峰と相改む。とありて、此の後眞性坊の子孫絶えたりけん、山伏共の中に此の後眞性坊といふものなし。町内の傳説にも、眞性坊と呼べる山伏此の町内に居住せしよし云ひ傳ふるのみにて、斷絶の年曆未だ詳かならず。

○池田屋小路

此の小路は、堅町眞性坊小路の上なる小路を呼べり。舊傳に云ふ。昔此の小路の西角に、池田屋長左衛門とて舊家の商家數代居住す。故に池田屋小路と呼べりと云ひ傳へたり。然るに明治維新の際、明治四年四月戸籍編成の時、此の小路より鐵炮町へかけ、此の地邊を都而池田町と町名を建てたり。池田屋町となすべきを池田町とせしは、如何な

る詮議なりけん、故蹟の實を失せりといふべし。

○池田屋長左衛門傳

池田屋は世々長左衛門と稱し、藏宿とて藩士の知行米を預れるを商業とせり、堀枵庵の由緒書に云ふ。五世の祖堀枵兵衛は、堀左衛門督秀政に奉仕しける處、慶長十五年同苗勘左衛門と一集に金澤へ罷越し、勘左衛門は利常卿へ奉仕し、茂兵衛は町人と成り、家名を池田屋と稱し、數代堅町に居住せり。枵庵は即ち池田屋長左衛門の悴にて、初め長左衛門と呼び、商業をなす處、商賣方不得手に付き町醫師と成り、堀枵庵と改名し、安永八年七月御醫師並に被召出、五人扶持被下。とありて、太梁公より醫師並に命ぜられたり。坂井一調の根無草を考ふるに、枵庵は池田屋の次男なりしが、元文の頃兄池田屋長左衛門歿し、其の子幼少にて家を繼ぎけるに、枵をもり立て獨身にて後見すとあり。されば此の頃長左衛門と稱し、後見ながら戸主分に成り居たりしにや。さて枵庵は、後別家して堀枵庵と改稱し、池田屋は藏宿を勤め、文政年中まで連綿せしかど、追々零落して、堅町の居宅をば醫師高嶋氏へ賣却し、此の地を退去す